

2024年度 学校法人 三幸学園 こども専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 飯島聡平

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 上間良乃

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、保育分野の学校として「こどもを育み、人・社会を活性化することで日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、保育分野として「皆から信頼・感謝されるこどもの未来を育む人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

教務目標「愛校心を持ち、人間力と保育基礎力を持った人材育成」

2024年度の退学率は7.2%、昨対比+1%となった。

当法人の全分野平均7.6%、こども分野全体の平均が7.7%につき、それに比べると好結果のように見えるが、昨年度と同様増加傾向にあるため、今年度の退学理由を振り返り、次年度に活かしたい。

退学理由については、目標喪失・人間関係が大半を占めている。例年退学者が最も多い学年である1年生については、前年度13.1%だった退学率が12.6%と0.5%と少々減少した。卒業を控えた保育科2年生の退学率が4.7%(前年度4.3%)と悪化した。2024年度は、生徒が毎日通いたくなる学校となるよう、魅力ある授業づくりや過ごしやすい環境づくり、又こどもを常を感じるができるよう前年度より更に「沖縄こども保育園」や「泊認定こども園」「その他地域との連携」を強化し、目標喪失とならないよう実践力の強化に努めた1年であったため、学校の雰囲気明るくなり毎日通いたくなる学校へ目標に近づいた半面、規律や礼節において著しく低下が見える。引き続き継続した退学率低減を目指すことはもちろんだが、教育理念である「技能と心の調和」の元、技術のみならず心が通う教育を実施していきたい。又、昨今の社会環境の大きな変化の中、より一層充実した教育体制を確立し、ICT化の社会に貢献できる人材を育成すべく、ICTを取り入れた実習等を取り入れていく。更なる授業力向上のため、授業力向上研修の実施やメンバー、講師のコミュニケーション強化を図り、生徒情報共有や相乗効果を果たすこと、多様な生徒も増えているため、教室以外での自身の居場所を確保できるよう環境設定を強化する。

② 学校関係者評価委員会コメント

目標喪失などでの離職率や若者の指導方法は何を意識しているか。

山下委員(こども総合学科・保育科)近年入社している方と、以前から在職している方の考え方の違いにギャップなどを感じることもあるが、会社の中で指導(教育)の方法など各部署で模索中。

上間委員(こども総合学科・保育科)実習などを通して、業界の魅力などを伝えている。

近年は、目標喪失などで保育業界を目指す方が増えてきている気がするが、人間関係などが理由となっているケースは減っていると感じる。既存保育士などでの研修も必要だと思うので、研修会なども検討中。

上原委員(こども総合学科・保育科)学生時代に目標喪失・進路変更希望していた同級生でも最終的にはこどもに関わる仕事についていたりする。実習前後で退学してしまう同級生がいた。

実習日誌や実習先の先生との折り合いが影響していると考ええる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育人人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

人材育成像を掲げるものの、非常勤講師へは年3回の全体会議のみとなるため、常勤・非常勤の一体化を図り共通認識のもと教育を行えるように、日頃からの対面・ツールを活用してのコミュニケーション、リレーションを強化していく必要がある。常勤と非常勤の連絡チームを作り運用したが、導入して初年度だったため、活用にがさまざまであった。

③ 今後の改善方策

常勤と非常勤講師の連絡チームのタイムリーに情報を共有できる仕組みを強化する。また、全体会議では教職員の一体化を強化する研修を行う。生徒や保護者に対しては、アプリを活用し情報伝達や学校の取り組みを発信する。

④ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

山下委員(こども総合学科・保育科)社内会議の情報共有できるツールを利用している。

上間委員(こども総合学科・保育科)役割がそれぞれ違うため、なかなか一度に集まることは難しい。(こども園の弱み) 担任(中心職員)にて会議→メンバー共有→という流れをとっている。

共通理解を深めるという意味でも全職員の会議は必要と感じている。

情報共有もアプリ導入もされているが、文章では伝えきれないため使いきれていないのが現状である。

上原委員(こども総合学科・保育科)普段の何気ない会話が情報共有に繋がる。

【学校からの質問】

髪色・長さなどの指導についてはどこまで、どのように？（業界）

【委員の回答】

上間委員（こども総合学科・保育科）以前よりは柔らかくなっているが、保護者様からの印象もある。

信頼関係を築くうえでも本人で考えて髪色などは抑えている職員が多い。（奇抜な人はいない）

安心・安全を考えると、ネイルやピアスなどはない方が良いと年度当初に伝える。

おしゃれを見せることも子供には必要である。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

概ね項目毎に適切な運営が出来ている箇所が多いが、コンプライアンス体制については教職員全員の意識と行動が高いレベルというには未だ管理や研修が必要な箇所があると感じられる。また、情報システムについても各部署で取り入れているが、未だ ITリテラシーの理解度、運用が様々である事から課題があると認識をしている。

② 今後の改善方策

学園本部からコンプライアンスに関する研修や資料を学内会議にて共有し教職員全体の意識と知識を向上させるよう実施する。年 3 回の全体会議やツールを活用し、資料や動画を共有する。情報システムについては現状使用しているツールの使い方は慣れてきている為、授業やその他教務で使用できるツールの紹介、今後 ICT 教育をうけた経験のある入学者が在籍する事も踏まえ、システムの使用について研修も重ねて実施していく。非常勤講師の ICT 研修も全体会議以外でも導入する。

③ 特記事項

なし

⑥ 学校関係者評価委員会コメント

上間委員（こども総合学科・保育科）那覇市内もアプリの導入などが増えてきている。

→2年目（過渡期）なので、試行錯誤している。（データ管理？紙面保管？編集のしやすさ、使いやすさなど）

山下委員(こども総合学科・保育科)年に2回コンプライアンス研修は実施している。

上原委員(こども総合学科・保育科)アプリ内での管理(月案)→今年度からアプリ内で管理できるものは紙面印刷はしていない。パソコン利用する機会が少なかったため、入職後に教えてもらうことが多くなってしまった。在学中に Excel などは応用的な仕様の仕方まで触れてほしい。

(3)教育活動

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修実施が少ない。

② 今後の改善方策

業界との繋がりが持てるように、インターンシップの実施と業界連携活動の機会を増やし強化する。園長連絡会を継続して開催し、学校と園の連携強化を図っていく。

③ 特記事項

なし

⑦ 学校関係者評価委員会コメント

①の課題における学校側へ求めること

上間委員(こども総合学科・保育科)地域での交流(幼保小)機会増やしたい。

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

継続的な退学率の低減

卒業生と卒業後繋がるアプリの登録状況は増加したものの、情報発信やフォローは不足している。

② 今後の改善方策

退学率軽減に向け、現実的な数値目標の設定や、学生状況の教職員間の情報共有、養護教諭も含めたサポート体制の強化を図る。又行事や委員会の実施時期の変更をする。

実習巡回で得た卒業生情報をリスト化し、重要な項目を教職員間で共有。在校生の指導へ生かす。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

上原委員(こども総合学科・保育科)同期と話すことは多いが、他の園に務めている同級生と交流する機会がないため意見交換する機会が欲しい。→各園での取り組み、行事等どんな風に行っているか?情報が欲しい。

卒業生同士だけでなく、在校生にも知ってもらう機会があると良いのでは。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	4
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

再進学者に対する教育環境の整備を強化する必要がある。

学生のニーズに合わせた進路活動を展開できるよう、就職先の開拓が必要。

② 今後の改善方策

再進学者に対しての交流会や相談会などを実施する。

保育園、幼稚園、認定こども園のみならず、保育の学びを生かせる新規求人の獲得、および就職指導を行う。

⑧ 特記事項

教育訓練給付金対象者 3名

委託訓練生 9名

③ 学校関係者評価委員会コメント

上原委員(こども総合学科・保育科)要望はないが、継続して進路、就職支援体制を強化していただきたい。

山下委員(こども総合学科・保育科)要望はないが、継続して進路、就職支援体制を強化していただきたい。

上原委員(こども総合学科・保育科)要望はないが、継続して進路、就職支援体制を強化していただきたい。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

施設・設備の更なる整備が課題。

② 今後の改善方策

施設設備の経年劣化も進んでいることから、ピアノ、プロジェクター等の備品をリニューアルし、ビルメンテナンス企業様との連携を強化していく。

③ 特記事項

年間2回の沖縄こども保育園との合同避難訓練実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

山下委員(こども総合学科・保育科)学生も含めた消防訓練ができれば良い。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

定員充足率を100%にする

② 今後の改善方策

広報活動の更なる強化。

③ 特記事項

一般社団法人沖縄県専修学校各種学校協会に加盟し、同会で定められた生徒募集ルールに則り取り組んでいる。併せて、生徒募集専門部署である沖縄広報室を設置し、募集活動に取り組んでいる。

④ 学校関係者評価委員会コメント

園の人材募集について

上間委員(こども総合学科・保育科)給料、手当の見直し。年々よくなっている。

一方で公立園以外の園の給料水準が良くなってきているので、公立園を選ぶ方も減ってきている。

(8)財務

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3期中期計画(2023 年度～2027 年度)の2年目にあたり、中期計画及び進捗状況はホームページ上に公開している。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

第3期中期計画については、東京未来大学及び小田原短期大学の中計改定に加え、東京みらい中学校及び支援学校仙台みらい高等学園の内容を追加し、第3期中期経営計画(第2版)として改定する予定である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

上間委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、安定した基盤に基づく財務状態を維持していただきたい。

山下委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、安定した基盤に基づく財務状態を維持していただきたい。

上原委員(こども総合学科・保育科)

特に要望などはないが、安定した基盤に基づく財務状態を維持していただきたい。

(9)法令等の遵守

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

山下委員(こども総合学科・保育科)個人情報の管理方法について、ファイル→鍵のかかる棚に、部屋も

上原委員(こども総合学科・保育科)個人情報の管理方法について、キャビネットに格納している

(事務所保管)

園内にも簡単には外部の人間が出入りできないようになっている。

上間委員(こども総合学科・保育科)個人情報の管理方法について、担任が棚の鍵開閉対応可能にはしている(退勤時には必ず閉まっていることを確認してから退勤)職員室には必ず誰かがいる。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

2024年度より沖縄県委託訓練の対象校となった(定員 10 名)。定員充足率を上げていく。

② 今後の改善方策

委託訓練の定員充足率 100%を目標に、社会人向けの SNS や HP を利用した広報活動を積極的に行っていく。

FC 琉球様との地域連携活動を定期的に行う。新たに琉球ゴールデンキングス様との地域連携活動も行う。

③ 特記事項

沖縄こども保育園の園行事ボランティア実施

太陽のえくぼ様との地域連携ボランティア実施

④ 学校関係者評価委員会コメント

上間委員(こども総合学科・保育科)今後も学校側と連携をできれば良いと考えている。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	
学内で適切な体制が整備されているか	

① 課題

受け入れなし

② 今後の改善方策

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

①学習意欲をどう継続するか。学習内容や実践的な授業などは勿論大事ではあるものの、友人関係や居場所づくりなど学ぶ環境をどう設定するかが基礎として重要である。

②卒業後の学ぶ直し、卒後支援の場の提供など在学中だけに限らず生涯の学び舎としての機能を学校が備えているとより多くの対象に地域貢献、社会貢献が可能になる。

③授業を理論で学ぶことは大事だが、やはり演習実践を通して“出来る”ようになる事が重要である。体験型の学びをどう構築していくかが大事である。

④地域連携としてより開かれた学校づくりを如何にするか、卒業生以外にも地域や社会にも活用して頂くようなイベントや保育製作物の貸し出しなど今後は検討していけると尚良い。

以上4点を大枠の取り組みとしてとらえ、今後の学校運営に活用していく事とする。

以上